

# 「家庭の食卓トレンド調査<野菜編>」結果の速報

## 産地で選び、サラダとジュースで不足解消

株式会社日本能率協会総合研究所(代表取締役社長:榮 武男 本社:東京都港区)は、2007年7月に首都圏1都3県に在住する主婦(20~50代)・シニア主婦(60~70代既婚女性)および独身女性(20~30代)を対象に、「家庭の食卓トレンド調査」を実施いたしました。本調査は、食卓の変化の兆しをとらえるため、《野菜》《調味料》《メニュー》《食材》の領域について、網羅的に調査したものです。今回はその中から、《野菜編》の内容を中心に、20~50代主婦の結果から、速報を報告いたします。

(<http://www.jmar.biz/hot/hotang27.html>)

**生鮮食品の購入重視点は「鮮度」「安さ」「産地」、  
安全性を「産地」で判断する傾向が定着。**

野菜・魚介類・肉類とも、1位が「鮮度」で8~9割、2位が「価格の安さや手ごろさ」で7割前後。3位以下は、野菜が「産地」「旬」、魚介類が「旬」「産地」、肉類が「産地」「販売の量・単位」である。

**野菜は「充分」「ほぼ」足りていると思う主婦が約6割、  
魚介類は「不足がち」、肉類は「減らしたいと思う」。**

野菜は「充分足りている」「ほぼ足りている」が6割、不足感を持つ人が4割。魚介類は足りている人が53%、不足感を持つ人が47%。肉類は足りている人が96%、うち「減らしたいと思う」という人が22%。

**「煮物」や「具だくさんのみそ汁」で野菜を摂りたいけど、  
手軽な「サラダ」「野菜ジュース」で不足解消を。**

「煮物等」「みそ汁を具だくさんに」が6割強。「野菜炒め」「カレー・シチュー」「サラダ」が続く。「サラダ」が44%と14ポイント増、「市販の野菜ジュース」が42%と11ポイント増、「野菜炒め」も6ポイント増。

**健康・食育野菜が人気、「たまねぎ」「にんじん」は便利で常備、  
「かぼちゃ」「ほうれん草」はもっと利用。**

「たまねぎ」は「常備」「便利」で9割を超え、「身体にいい」でも77%。「ほうれん草」「にんじん」「かぼちゃ」「トマト」は、「身体にいい」「子供に食べさせたい」の1位~4位。

### 【調査概要】

- ・調査対象：首都圏1都3県に在住する主婦(20~50代)・シニア主婦(60~70代既婚女性)および独身女性(20~30代) 過去と調査対象をそろえるため、20~50代主婦の合計値で分析しました。
- ・調査方法：日本能率協会総合研究所「J-FAXリサーチ」モニターへの郵送(回収FAX)調査
- ・有効回収数：1,210人(発送数1,600人、有効回収率75.6%)
- ・調査実施日：2007年7月3日(火)~11日(水)

### 《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所

生活者HOTアンケート事務局 担当:土井

〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22 日本能率協会ビル6F

TEL:03-3578-7602 FAX:03-3578-7614 E-mail:info\_mlmc@jmar.co.jp

2007年5月に移転いたしました。

## 生鮮食品の購入重視点は「鮮度」「安さ」「産地」、 安全性を「産地」で判断する傾向が定着。

20～50代の主婦に、野菜・魚介類・肉類を購入するときに、主に重視することを3つまで選んでもらいました。

野菜・魚介類・肉類とも、1位が「鮮度」で8～9割の回答、2位が「価格の安さや手ごろさ」で7割前後でした。ほとんどの人は生鮮食品に「鮮度」と「安さ」を重視していることがわかります。

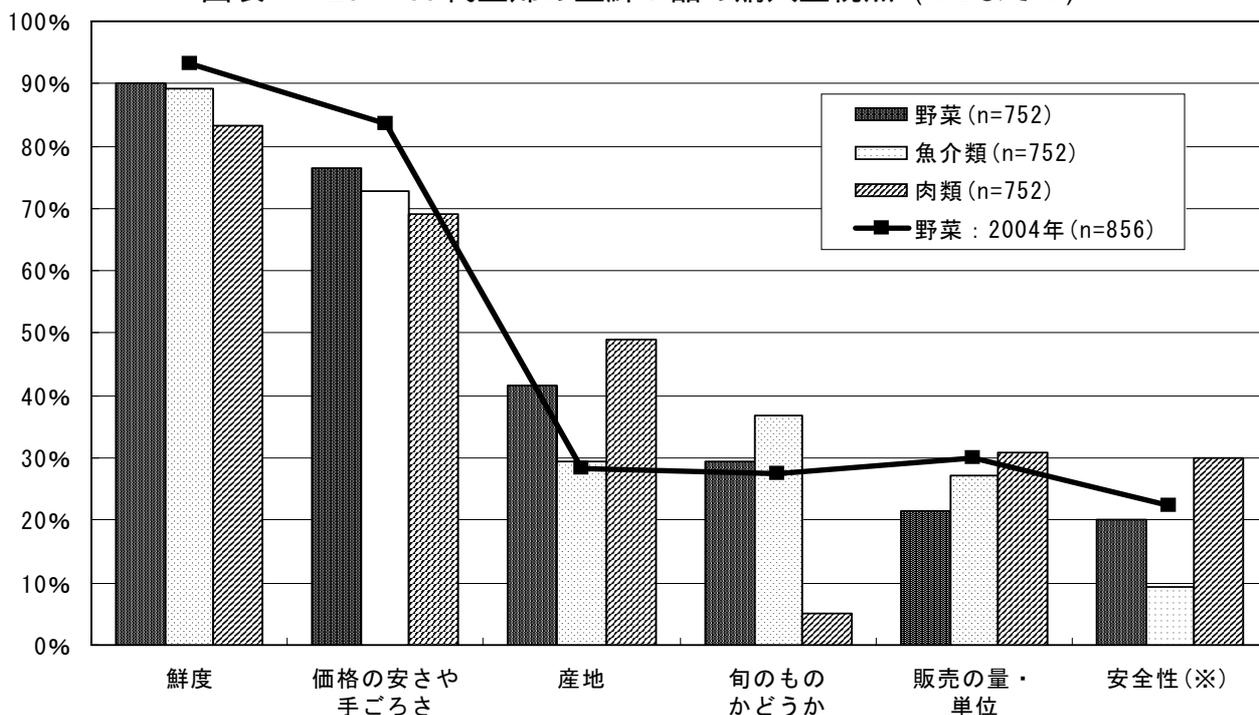
次いで、人によって重視点が異なる3位以下を見てみます。野菜が「産地」「旬のものかどうか」「販売の量・単位」「栽培方法や安全性」、魚介類が「旬のものかどうか」「産地」「販売の量・単位」、肉類が「産地」「販売の量・単位」「飼育方法や安全性」でした。いずれも「産地」を重視する人は多いのですが、栽培方法・漁獲方法・飼育方法からみた「安全性」を選ぶ人は少ないという結果でした。

野菜の購入重視点は、2004年データでは「鮮度」「安さ」重視の傾向がより強く、3位以下の「産地」「旬のものかどうか」「販売の量・単位」はほぼ横並びでした。今回の結果と比較すると、「産地」重視の人だけが28%から42%と増加していることがわかります。

別に聞いた、野菜を購入する際の心がけでは、「中国産の野菜は敬遠」67%、「輸入野菜は敬遠」40%、「産地を気にして買っている」36%が多い一方、「無農薬・低農薬の野菜」24%、「有機栽培の野菜」14%と、栽培方法やオーガニックであることより、産地重視の傾向がはっきりしています。

食品の安全性については毎日のニュースで話題になっていますが、目に見えない、分かりづらい農薬や栽培方法よりも、表示さえあれば明らかに判断できる「産地」で、安全性を推し量り、生鮮食品を購入する基準としているという傾向が、よりはっきりしてきたのでしょうか。

図表1 20～50代主婦の生鮮3品の購入重視点（3つまでMA）



(※)野菜では「栽培方法や安全性」、魚介類では「漁獲方法や安全性」、肉類では「飼育方法や安全性」

## 野菜は「充分」「ほぼ」足りていると思う主婦が約6割、 魚介類は「不足がち」、肉類は「減らしたいと思う」。

20～50代の主婦に、野菜・魚介類・肉類について、食卓で足りているかを聞きました。

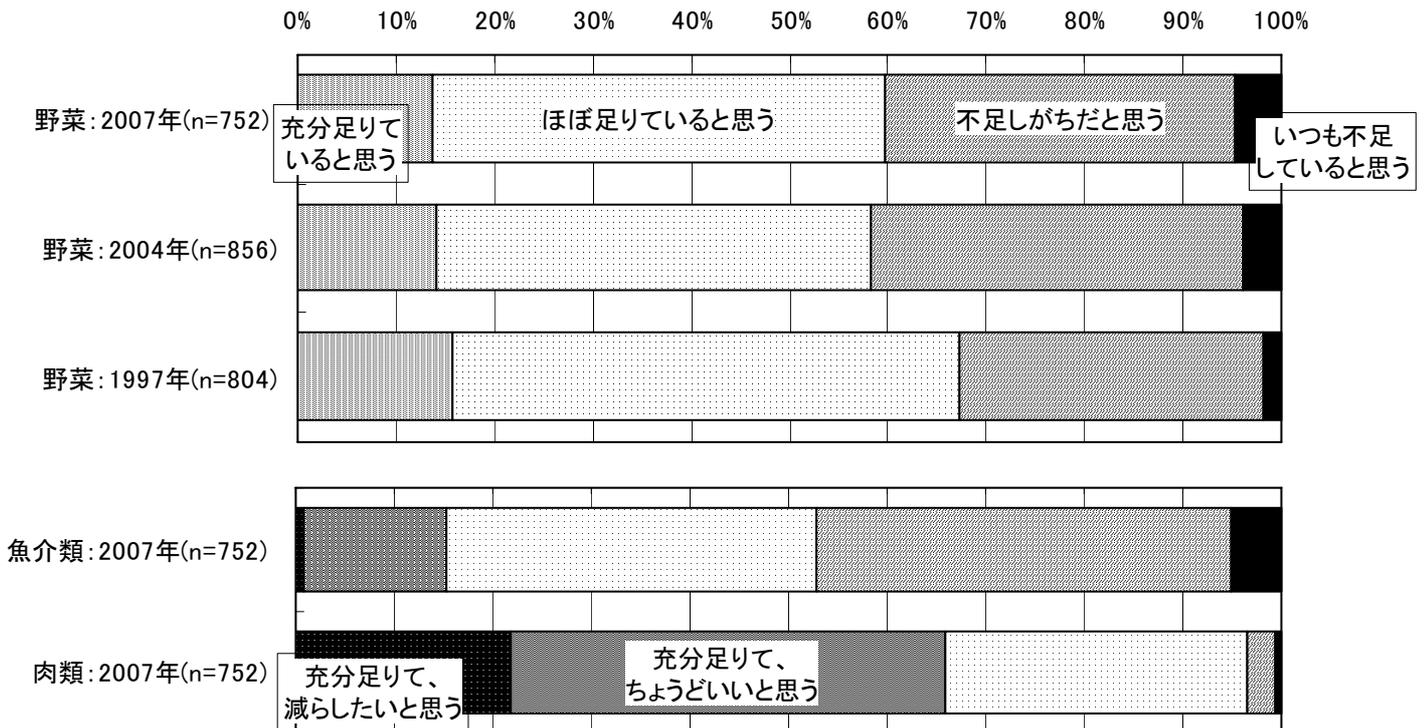
野菜は、「充分足りている」「ほぼ足りている」を合わせた足りている人が6割、不足感を持つ人が4割という結果でした。不足感を持つ人は、1997年と比較すると33%から40%に増加していますが、2004年からはあまり変化がありません。

魚介類は、足りている人が53%、不足感を持つ人が47%と、野菜と比べて不足感を持つ人は若干多いようです。

肉類は、足りている人が96%にも達し、不足感はないようです。足りている人のうち、「充分足りて、摂りすぎており、減らしたいと思う」という人が22%、「充分足りて、ちょうどいいと思う」という人が44%と、摂りすぎ感が高いのも特徴です。

健康重視、“メタボリックシンドローム”を避けたい意識からか、野菜・魚介類はよく食べているし、もっと食べたい意識が強く、便利だし子供も喜ぶのでつい摂りすぎてしまう肉類は、脂の多いこともあり極力減らしたいというところでしょう。

図表2 20～50代主婦の生鮮3品の充足感 (SA)



## 「煮物」や「具だくさんのみそ汁」で野菜を摂りたいけど、 手軽な「サラダ」「野菜ジュース」で不足解消を。

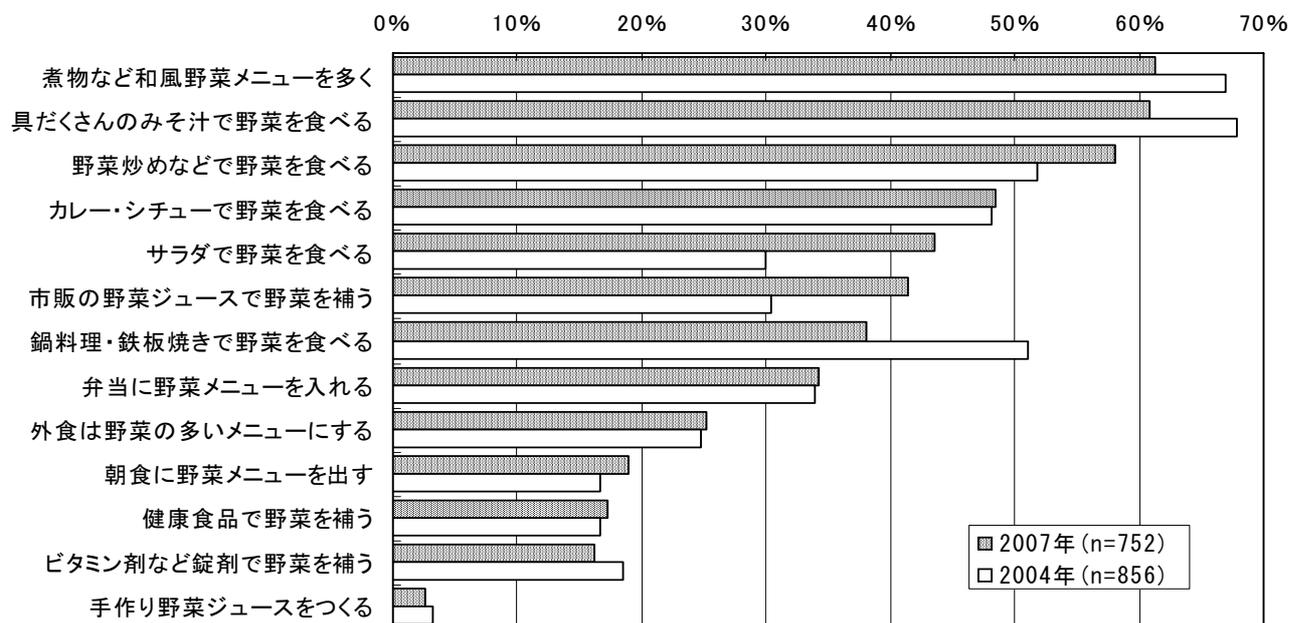
20～50代の主婦に、野菜の摂取について心がけていることを聞きました。

「煮物・おひたし・あえもの等和風野菜メニューを多くする」「みそ汁を具だくさんにして野菜を多く食べるようにする」が6割強と多い心がけでした。以下、「野菜炒め」「カレー・シチュー」「サラダ」といったメニューが続きます。

しかしながら、2004年と比較すると、「煮物」「具だくさんのみそ汁」は、共に5ポイント以上減少しています。増加しているのは、「サラダで野菜を多く食べるようにする」が44%と14ポイント増、「市販の野菜ジュースで野菜不足を補うことがある」が42%と11ポイント増、「野菜炒め等で野菜を多く食べるようにする」も6ポイント増でした。

心がけという意味では、煮たり茹でたり汁物でという“和風の加熱調理”が、望ましいメニューだと思いい、野菜も多く摂れると思っているのでしょう。しかし、現実的にはその手間が面倒、手間をかけたくないという状況が多くなっているものと思われます。より簡単な調理で済むサラダや炒め物が増えてきており、更に手軽で、ヒット商品も目立った野菜ジュースで野菜を摂ろうとする主婦も目立ってきました。今後ますます、手軽に野菜を摂る傾向は、強くなるでしょう。

図表3 20～50代主婦の野菜摂取の心がけ (MA)



## 健康・食育野菜が人気、「たまねぎ」「にんじん」は 便利で常備、「かぼちゃ」「ほうれん草」はもっと利用。

日常的な野菜54品目を挙げ、「常備(いつも買っておく)」「便利」「身体にいい」「子供に食べさせたい」「面倒」「あまり使わない」「最近よく利用」「もっと利用したい」野菜を選んでもらいました。回答した比率を野菜ごとにレーダーチャートにしたのが下記の図です。

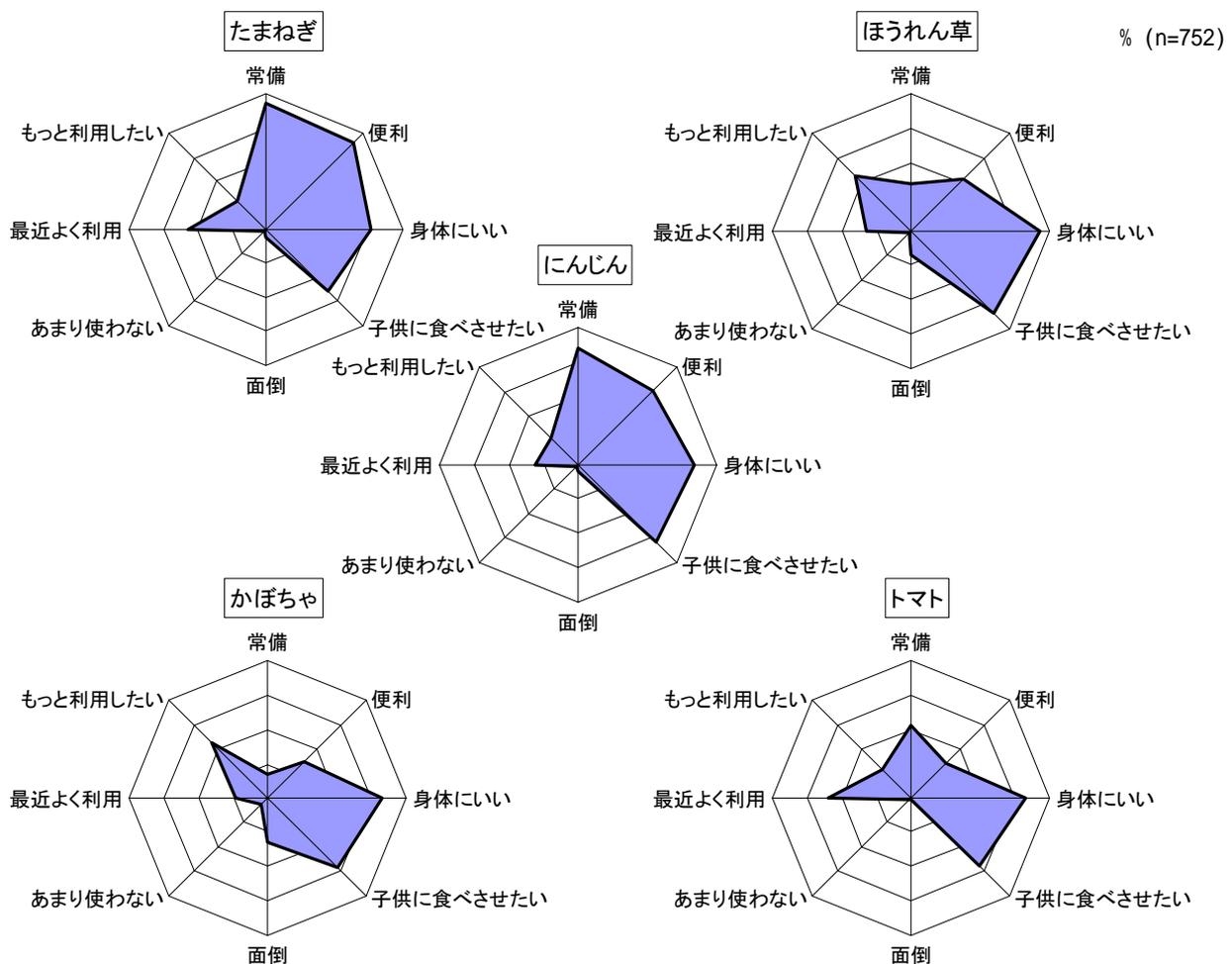
「たまねぎ」は「常備」「便利」で9割を超え、54品目中1位の野菜でした。「身体にいい」でも77%に達し、「子供に食べさせたい」でも6割を超えました。

「ほうれん草」「にんじん」「かぼちゃ」「トマト」は、「身体にいい」「子供に食べさせたい」の1位～4位です。その中で「にんじん」は「常備」で85%と2位、「便利」でも77%に達します。

「たまねぎ」「にんじん」は「身体にいい」「子供に食べさせたい」という健康・食育ニーズが高いと同時に、保存性・利便性も高い、ポジティブイメージの強い野菜でした。

「ほうれん草」「かぼちゃ」「トマト」は、健康・食育ニーズが目立つ野菜ですが、その中で「最近よく利用」するのが「トマト」、 「もっと利用したい」という意向が高いのが「かぼちゃ」「ほうれん草」でした。

図表4 日常野菜のポジショニング (MA)



(※)レーダーチャート内で「調理が面倒」については2倍値、「最近よく利用する」「もっと利用したい」については4倍値でプロットしている。

「家庭の食卓トレンド調査」は、食卓の変化の兆しをとらえるため、首都圏1都3県に在住する主婦(20～50代)・シニア主婦(60～70代既婚女性)および独身女性(20～30代)を対象に、下記項目について調査を企画・実施いたしました。

- 《野菜編》 野菜の購買と利用、定番野菜の使い方とイメージ、野菜の加工食品、新顔野菜の浸透度
- 《調味料編》 洋風調味料の定着度、アジア系調味料の定着度、和風調味料の定着度、スパイスの定着度、調味用食材の定着度、目新しい調味料・スパイスの購買行動
- 《メニュー編》 世界各国の料理、世界(西洋系・中華系・韓国系・東南アジア系・ラテンアメリカ系)のメニューの家庭への浸透度、日本のご当地メニューの家庭への浸透度
- 《食材編》 魚介類の購買と利用、肉類の購買と利用、定番加工食品・チルド食材の使い方、海外本格食材の家庭への浸透度

本調査は、食卓の変化の兆しをとらえる生活者データベースとして、食生活のマーケティング戦略に必要な基礎調査データです。今回はその中から、《野菜編》の内容を中心に、「生鮮3品の購入重視点」「生鮮3品の充足感」「野菜摂取の心がけ」「日常野菜のポジショニング」に焦点を当てて結果の速報を報告しております。  
(<http://www.jmar.biz/hot/hotanq27.html>)

#### 【調査入手のご案内】

弊社自主企画により、複数企業にご参加いただく方式で実施し、以下のアウトプット一式を提供いたします。

- 《野菜編》 ・調査参加費用：定価40万円(税込42万円)・M D Bメンバー価格36万円(税込37.8万円)  
・調査のアウトプット(1)調査報告書(2)集計結果表(3)磁気データ
- 《調味料編》 ・調査参加費用：定価20万円(税込21万円)・M D Bメンバー価格18万円(税込18.9万円)  
・調査のアウトプット(1)調査報告書(2)集計結果表(3)磁気データ
- 《メニュー編》 ・調査参加費用：定価20万円(税込21万円)・M D Bメンバー価格18万円(税込18.9万円)  
・調査のアウトプット(1)調査報告書(2)集計結果表(3)磁気データ
- 《食材編》 ・調査参加費用：定価20万円(税込21万円)・M D Bメンバー価格18万円(税込18.9万円)  
・調査のアウトプット(1)調査報告書(2)集計結果表(3)磁気データ
- 《まとめ編》 ・調査のアウトプット(1)分析レポート  
全編購入いただいた企業には無料にて提供いたします。《野菜編》《調味料編》《メニュー編》《食材編》いずれか1編以上購入いただいた企業のみ頒価10万円(税込10.5万円)にて購入いただけます。まとめ編のみの購入は出来ません。

本調査の成果物の著作権は(株)日本能率協会総合研究所が保有します。  
弊社は、本調査にご参加・購入いただいた企業(法人・個人)以外には、成果物を提供いたしません。ただし、本調査を告知するための限定的な利用、及び発刊から一定期間経過後はこの限りではありません。  
本調査の成果物のご利用はご参加・購入いただいた企業(法人・個人)の内部でのご利用のみに限らせていただきます。

#### 《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所

生活者HOTアンケート事務局 担当:土井

〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22 日本能率協会ビル6F

TEL:03-3578-7602 FAX:03-3578-7614 E-mail:info\_nlmc@jmar.co.jp

2007年5月に移転いたしました。 <http://www.jmar.biz/hot/>

**本件引用の際は、お手数ですが、上記あて掲載紙をご送付ください。**